



## コンテンポラリーアートと現代のサウンドテクノロジーの融合



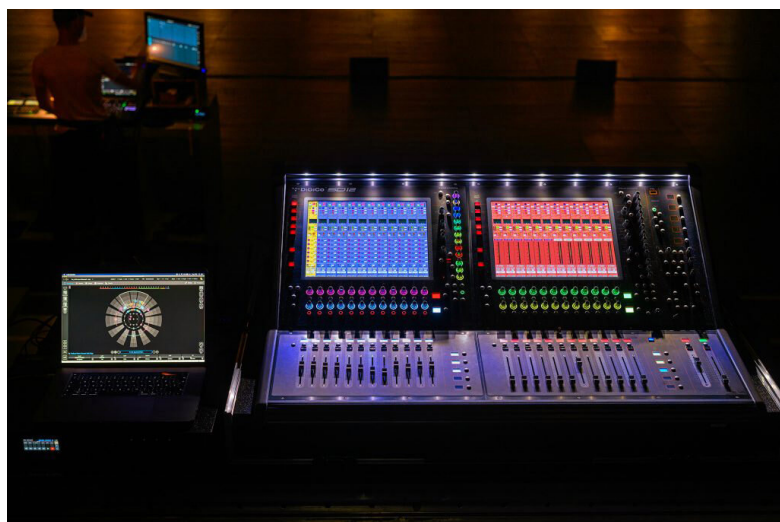
Radialsystemのメインホールでは、A15アレイをベースに、フロントフィル、サラウンド、エレベーションシステムとしてX8を組み合わせたL-Acoustics L-ISAのモジュラー構成を使用しており、2つのステージサイズに素早く変換することができます。撮影者：Phil Dera

ドイツ・ベルリンのRadialsystemがドイツで初めてL-ISA Immersive Hyperreal Sound Systemを導入した会場に

2021年5月

ベルリン・フリードリヒスハインのシュプレー川沿いにある、かつてポンプ場だった Radialsystemは、2006年からその建物や屋外スペースを舞台に変えて、壮大なパフォーマンスを開催しています。観客は、2つの大きなホールでちょっと変わった環境で開催されるイブニングコンサートを楽しむことができ、小さなスタジオではインスタレーションに驚かされています。そして、オープンデッキでは水面を見ながら夕日を浴びてリスニングセッションを楽しむことができます。Radialsystemは、新しい芸術プログラムやイベント形式を開発するための創造的な制作・イベント会場として、多くの会議やミーティング、見本市を開催しており、その多くが革新的で未来的なテーマを扱っています。イベントの数や種類が多いことは、それだけ質

が求められているということであり、常に開発と挑戦を続けることが会場の本質になっています。この会場には、ドイツで初めてL-ISA Immersive Hyperreal Sound Systemが常設されています。



Radialsystemには、5つのフロアに延べ約2,500平米のイベントスペースがあります。L-ISA Immersive Hyperreal Sound Systemは、一番大きな空間である600平米のメインホールのために設計されており、コンサート、音楽劇、ダンスパフォーマンス、現代電子音響音楽のサウンドインスタレーション、言語や対話に焦点を当てた公演など、Radialsystemで開催される幅広いイベントに対応しています。さらに、かつて下水ポンプ場のマシンホールだったこの空間には、歴史的な産業建築の姿が残っています。アーチ型の大きな窓や、石やコンクリートが敷き詰められ、さまざまな音響上の課題を抱えています。





Radialsystemのチームは、L-Acousticsドイツ担当アプリケーションインストール責任者であるマーティン・ローデ (Martin Rode) と協力して、A15アレイをベースにした、2つの異なるステージサイズに迅速かつ容易に対応できるモジュラーシステムを採用しました。シーンシステムは、1台のA15 Focusと2台のA15 Wideにより5つのアレイに加えて、エンドファイア構成でフライングされた2台のKS21による2つのサブウーハーアレイで構成されています。

「KS21サブウーハーと組み合わせることで、A15は様々なイベントを完璧にカバーするために必要なローエンドを提供します。」とローデ氏は説明します。「さらに、内蔵されたPanflexシステムにより、A15は水平方向のディスペーションパターンを個別に調整できるため、建築物からの側面反射を最小限に抑えることができます。」

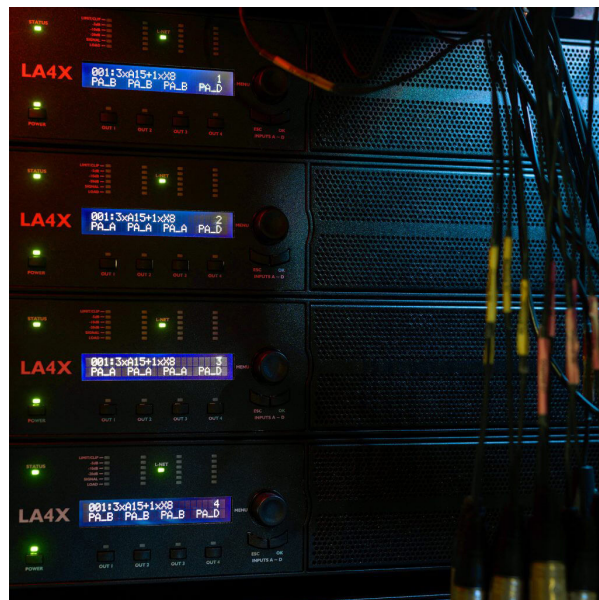
5台のX8がシーンエリアに沿ってフロントフィルとして使用され、さらに11台のX8が外壁と後壁に沿ってサラウンドシステムを構成しています。L-ISAのインストールを締めくくるとは、エレベーション用の9台のX8で、天井エリアに設置されています。

フリーランスのサウンドエンジニアであり、RadialsystemでL-ISAシステムのプロジェクトマネージャーを務めるカーロ・グリッパ (Carlo Grippa) 氏は、数年前にフランクフルト・アム・マインで開催されたProlight + SoundでL-ISAと初めて出会いました。サラウンド分野での豊富な経験を持つ彼は、L-ISA Immersive Hyperreal Sound技術の音の忠実さと可能性に驚かされました。

「私は現代音楽の実験的な分野で多くの仕事をしていますが、多くの場合、電子的な要素と組み合わせています。そのため、常に複雑なサラウンドシステムやミックスを扱い、観客に没入感を与えるようなシステムを自ら設計してきました。」

Prolight + Soundの直後、グリッパ氏はL-ISA Labsのディレクターであるシェリフ・エル・バーバリ (Sherif El Barbari) 氏と一緒に、ロンドン・ハイゲートにあるL-ISA本社で大規模なデモの一環として、このシステムを試してみることにしました。

「その時、私にとってL-ISAはSRを未来に導くものだと実感しました。」とグリッパは続けます。「L-ISAは、特定の音楽



的方向性に基づくものではなく、創造性の高い、直観的なソリューションであり、私が聴いた中で最高のサウンドシステムです。それがまさにRadialsystemに対する我々の重要な要求でした。」

L-ISAとRadialsystemは、すでに有望で強力な組み合わせであることを証明しています。「たくさんの現代音楽やダンス、クラシック音楽 (多くの場合、サウンドエンジニアリングやエレクトロニクスに関連したもの)、ジャズ、ポップス、イベント、パーティーなど、さまざまなパフォーマンスやイベントを開催しています。Radialsystemのすべてのサウンドエンジニアは、創造性の強いパルスを持ち、アーティストに彼らの作品の真のオーディオの可能性を見せたいと思っています。同時に、ミックスを担当する技術者は、クリエイティブな自由度を高めるために、より幅広く、簡単にアクセスできるツールを手に入れることができます。L-ISAを使えば、音楽的な水準を常に全く新しいレベルに引き上げることができます。つまり、聴覚的なシューティング・ギャラリーという意味でのショーマンシップではなく、繊細で包み込むようなクリエイティブな使い方ができるのです。」

